

人権だより

No.328 (2025.10)

『揺れながら育つ人権のまなざし』

しんろか まつうら いっせい
進路課 松浦 一晴

わたくし じんけん
私が「人権」についてきちんと考えるようになったのは、アメリカ
おきた どうじたはつ いこう おも きみ う
で起きた同時多発テロ以降だと思ふ。君たちがまだ生まれていない
ねん がつ にち き ひこうき かげきは の と
2001年9月11日、4機の飛行機が過激派グループに乗っ取られ、
そのうちの2機がニューヨークの高層ビルに衝突した。翌日のテレビ
には、崩れていくビルや逃げ惑う人々が何度も映し出され、現実とは
おも こうけい せかいじゅう ことば うしな
思えない光景に世界中が言葉を失った。



じけん あと ぜったい ゆる ことば まいにち
事件の後、「テロは絶対に許されない」という言葉が毎日のように
なが つよ わたくし ひと ぜったい かん
流れていた。その強いメッセージに、私も「テロは人として絶対にしてはいけないことだ」と感じ
た。でも、だいがく せんせい はなし き こころ ゆ せんせい い お
た。でも、大学である先生の話を受けて、心が揺れた。その先生はこう言った。「テロを起こし
はいけい ふこうへい あつか う こえ あ しゅだん も じじょう
た背景には、不公平な扱いを受け、声を上げる手段も持てなかったという事情があるのかも
しれない。もちろん、かれ こうどう ゆる りゆう し たいせつ
しれない。もちろん、彼らの行動は許されるものではないが、その理由を知ることは大切だ」
と。わたくし ことば とまど お かんが
と。私はその言葉に戸惑いながらも、「なぜそんなことが起きたのか」を考えるようになった。

「9.11 テロ」以降、わたくし じんけん かんが ものごと ひと めん み き
私は「人権を考える」とは、物事の一つの面だけを見て決めつけるこ
とではないと理解した。りかい しゃかい ただ まちが つよ いけん
社会には、「これは正しい」「これは間違っている」といった強い意見
があふれている。でも、その裏には見えない事情や語られていない思いがあるかもしれない。
だからこそ、ほんとう ほか たちば み じぶん かんが
だからこそ、「本当にそうか?」「他の立場から見たらどうなのか?」と、自分で考えることを
たいせつ じんけん たいせつ なに いっぽうてき わる き
大切にしたい。人権を大切にすると、何かを一方的に悪いと決めつけることなく、その
ひと じょうきよう おも かか め む とき
人がどんな状況にいたのか、どんな思いを抱えていたのかに目を向けることだ。それは、時に
じぶん かんが おお ゆ けいけん
自分の考えが大きく揺れるような経験になるかもしれない。でも、その揺れの中にこそ、人権
たいせつ おも
を大切にするためのヒントがあるのだと思ふ。

きょう げん じんけん どうわきょういく かか じゅぎょう おこな たんにん じゅぎょう じゅんぴ なか
今日の6限、人権同和教育に関わる授業が行われる。担任として授業を準備する中で
「本当にこれで良いのか?」という疑念が絶えなかったことを覚えている。それくらい、じんけん
かか もんだい わずか きみ たんにん きょう ぜんりよく じゅぎょう じゅんぴ きみ
関わる問題は難しい。君たちの担任は、今日のために全力で授業の準備をしてきた。君たち
きょう じゅぎょう とお じぶん あたま かんが しせい たしや
も今日の授業を通して、自分の頭でじっくりと考えてみてほしい。その姿勢こそが、他者を
そんちょう よ しゃかい だいいっぱ わたくし しん
尊重し、より良い社会をつくる第一歩になると私は信じている。

【保護者の声】 文章を読んだPTA 人権委員の方の感想です。

どうじたはつ ねんご かしゆひととよう じ こはっせいげんば ゆうじん
同時多発テロから2年後、歌手一青窈さんは、事故発生現場にいた友人からのメールに
しょうげき う きょく つく よ で まえ か し さんだん
衝撃を受け、「ハナミズキ」という曲を作りました。世に出る前の歌詞には、「テロ」や「散弾
じゅう ちょうはつてき か し きみ す ひと ひやくねんつづ か
銃」といった挑発的な歌詞もあったようですが、「君と好きな人が百年続きますように」に書き
か はいけい まつうらせんせい か ひとと ころ ゆ うご
換えられました。その背景には、松浦先生が書かれたように、一青さんの心が揺れ動いたの
だと思ひます。心が揺れ動く時こそ、真摯にその出来事と向き合っている状態だと思ひます。
こ ころ ゆ うご ひび たいせつ じんけん しんし む あ
子どもたちには、心が揺れ動く日々を大切に、人権についていつも真摯に向き合ってほしい
と思ひます。(5年生保護者)

【人権委員の声】

ある1つの出来事でも、見方、立場によって善悪は変わってくると思ひているので、これは
わる これは よ き いろいろ めん ものごと み かんが こと だいじ
悪い、これは良いと決めつけるのではなく、色々な面から物事を見て、考へる事を大事にした
いと思ひました。(4年生 人権委員)

わたしじしん い おも いちぶひょうめん しや はい
私自身、「みんなが言っているから」と思ひ、一部表面しか視野に入っていないでした。
これからの生活の中で様々なことに対面し、悩むかもしれませんが、物・事だけに注目して良
い悪いを勝手に決めつけず、人の気持ちにも目を向けて正しく対処したいです。(4年生 人
権委員)

せんそう ほんにん かがいしゃ かんぜん あく あつか ていこう かん
戦争やテロの犯人や加害者が完全に悪のように扱われるのにはものすごく抵抗を感じ
ていました。松浦先生が書かれているように、人道的に許されない行動をしているのは事実
ですが、その背景には様々な事情があることを忘れてはいけなと改めて思ひました。そし
て、人権問題に“絶対的な正しさ”なんてないし、逆にそういう考へ方の押しつけ合いが新たな
さべつ う だ げんいん う たよう かんよう かんが かた も わす
差別を生み出す原因にもなり得るので、多様で寛容な考へ方を持つことも忘れないでいた
いと思ひました。(6年生 人権委員)

人権教育相談課より

ほんじつ じんけん どうわきょういくがかつつ ねんせい こはるびより まな けっこんさべつ ねんせい
本日の人権・同和教育学活では、3年生は「小春日和」から学ぶ結婚差別、4年生は「デー
ト DV～被害者にも加害者にもならないために～」、5年生は「『解放令』と新たな差別との闘
い」、6年生は「結婚問題の解消に向けて」について学習します。

ひとり じぶん かんが ゆうき だ いけん はっぴよう まな ふか きかい
一人ひとりが、自分ごととして考へ、勇気を出して意見を発表しあい、学びを深める機会にし
ましょう。